

御所
櫻



梅 松
録



竹

〜 13
3722
13





梅うめ

松まつ

録ろく

櫻うめ

御所ごしよ



不題
糸曲
子
國

上



門へ13
3722
卷13

國 貞 化 画



御新に
梅松録七編



上乃卷

一

茲み一本の樹も御所櫻梅松録と號く。
雖而櫻の如き香も有り梅
の如き薫ひも有り亦松の如き色も有り
と云徒半年の歳々枝葉の繁茂
僕小言らる余の官々數余計枝葉の
缺をいも實木と肥と天晴の株ふるごと
あつた後僕ゆつぬ負め左の去る彼



松竹梅の鉢植也。雪割福寿草の根あり強し正本を打捨て枝葉
計りを茂らまらむ是も僉根の譚ふも且いと亦一鉢と培て歳の内より
室の咲を来ん初春の御年玉の料と云はつ
亥春
春霞樓主人 鶴亭秀賀記

梅公録

鶴亭秀賀記



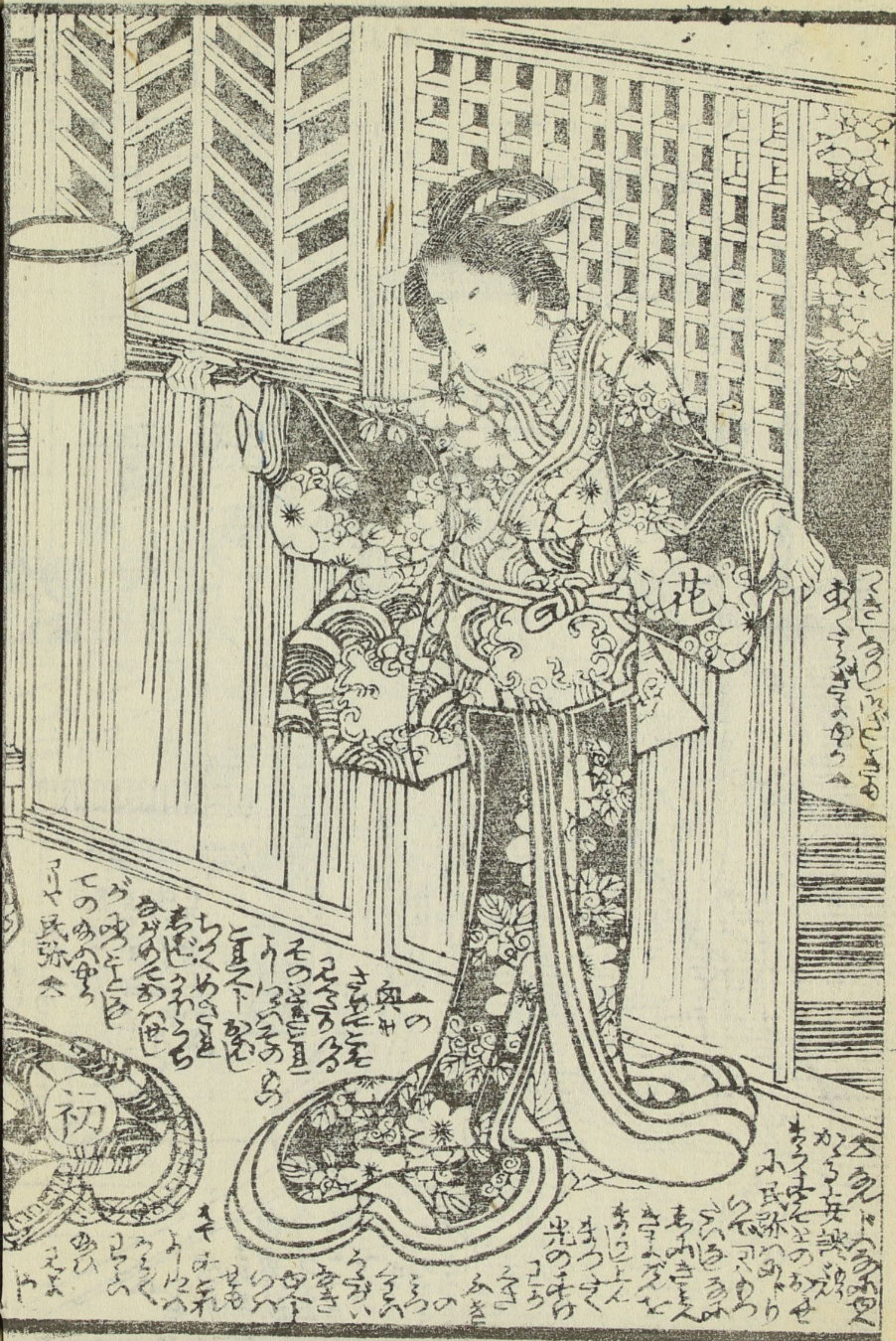
松の
前

呉竹



菅原家の
奥家老
榎田主膳
宗忠

中老
秋霜



光の香...
この花は...
初...
光の香...



秀賀作 國貞画

芳川春濤 國本 起泉 作

幻阿竹噲聞書三編

御所櫻梅松録 十五編

川上行義復讎新話二編

名所東京新圖 細見

澤村田之助喝草紙五編

武者切附本品々

坂東彦三倭一流三編

新形折本品々

白草阿繁顛末三編

石摺略曆品々

島田一郎梅雨日記五編

作者 岡本勲 造

其名高橋毒婦小傳七編

浅草瓦町十二番地 板主 綱島龜吉

